

ひろば大代

NO.368

大代まちづくり
センター

H22.3.23

〓 卒業おめでとう

〓 じやいます



三月は卒業のシーズンです。
14日(日)大田市第三中学校では9名(大代3名)の皆さんが卒業されました。皆さんからのメッセージです。

卒業に寄せて

三中3年 木村吏沙

早いもので私も中学校を卒業する事になりました。この三年間は本当によく笑い、良い思い出がたくさんできました。

体育祭や文化祭では全校生徒がとても少ないながらも内容の濃い、とても充実したものとなりました。

また部活のプラスバンドでは、今年

度は七人という島根県では最少人数ではありましたが、中国大会でトップに立てた事は一生の宝物になりました。その際、地域の方々には励ましの言葉やいろいろな面で支えていただき、ありがとうございます。本当に感謝しています。

最後にお父さんとお母さん。いつも支えてくれてありがとう。昨年の夏はお母さんが病気をして大変な事がたくさんあったけど、夏休みの部活の時は毎日、お父さんがおいしいお弁当を作ってくれました。本当にありがとうね。これまで私を支えて下さった全ての方々に感謝します。これからもよろしくお願いします。

感謝

三中3年 山根夕実



私が三中で過ごした三年間は、あつという間でした。しかし、その中でたくさんの経験ができました。また、良い思い出もたくさんつくることができ

たと思います。

三年間三中で、あのメンバーと、とても楽しく過ごすことができました。こうして、楽しく過ごせたのも、日頃から私を支えて下さった、皆さんの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

〓 難波利三賞

「ふるさと文芸賞」

入選作品

〓 あめ色の風景

上飯谷 武田 穰



我が家の玄関先には「はんど」が据えてある。飴のようにツヤのある赤茶色の、ずんぐりどっしりした大きなかめで、半月型の木の蓋が二つ合わさって乗っかっている。ふちが欠け割れ、底に近いところはうっすら緑色の苔が付いている。五十年は経つに違いない古い古い代物だ。中には何も入っていない。「ボクなあ、昔、こん中に入ってた隠れんぼしたことがあったんで」と言うとき、妻は「え？まさかー」失敬にも私の腹の辺りに目をやって大笑いす

る。

確かに
今でこそ
到底は
どに入り
きらない、
というよ
りはん
のような
体型だが、



小学生の頃、この中に入って隠れたこ
とを確かに覚えているのだ。「いち、
にーい、さーん」 鬼役の同級生がの
んびりと十数える声を遠くに聞きなが
ら、軒先に運良く見つけた空っぽのは
んどに潜り、閉まりきらない蓋を頭に
乗せてしゃがみこむ。はんどの中はし
んと真つ暗で冷んやりとして、ほんの
数分なのに何時間もいるような不思議
な心持ちだった。

ただしこの格好の隠れ場所は、兄の
ご注進で父母の知るところとなり「は
んどをいろいろちやあ、いけん！めいだ
らどがする！」こつぴどく叱られて以
来お預けとなったのだが。

もつとも、玄関から台所の土間まで

あちらこちらに置かれたはんどは全部
で二十近くはあっただろう。大抵何か
が詰まっついて、隠れようにも隠れる
余地はほとんどなかった。

小さなはんどには梅干しやザラザラ
した塩のたぐい。中くらいには、は
んどに負けず色の黒い味噌やたくあん
のぬか漬け。そして大きいには、
いつもなみなみと水が入っていた。蓋
の上にはちよこんとアルミの柄杓が伏
せてある。

一年三百六十五日、学校から帰った
僕ら子供が喉を一杯うるおすのも、野
良仕事から帰って来た父母がざぶざぶ
手足を洗うのも、それを待つ祖母が飯
を炊くのも、はんどの水。

「ばあちゃん、水道があるに」と言
っても「この水が一等うまいけえ」と
決して蛇口をひねろうとはしなかった
し、「『温泉津のまるもん（丸物）は
北前船で佐渡までわたる』やどのおつ
つあんがそう言うのとれた」とよく自慢
した。祖母は温泉津の養蚕家から嫁い
で来た人だった。

オトナになった僕は、はんどならぬ
瓦を焼く仕事に就いた。工場で毎日毎

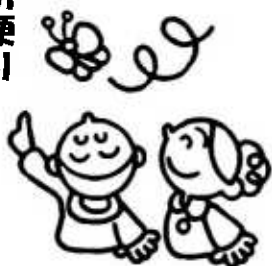
日焼きあがる瓦は、はんどと同じ色。
色だけじゃない。手に柔らかいのに頑
丈で、重いのに優しげな見た目。工場
長にそう言う「そらそがだわな、ま
るもん焼く登り窯で瓦を焼くようにな
ったんだだけえ似たもんだ」と笑われた。
当たり前に見過ごしていたあちこちの
屋根瓦が旧友の友になった瞬間だった。

さて、プラスチックは便利だし、ト
タン屋根も軽くて簡便だ。なんでも昔
が良かったと愚痴るつもりはない。そ
れでも僕は、はんどに潜り込んだ時の
あの鼓動と、しみじみ美しいあめ色の
風景を、どうにかして子供らの世代に
伝えたいと願わずにはいられないのだ。

小学生の ギフチョウ飼育観察に

長野より励ましのお便り

柿田 横手新治郎



今年も早いもので、春の季節が肌で
感じられる頃となり、大江高山にもそ
の気配とともに、ギフチョウの乱舞を

楽しみにしておられる方が多かろうと思いません。

今年の元旦の「島根日日新聞」に、大代小学校でのギフチョウ飼育と観察が、特集記事として大きく報道されました。見出しは「身近にある自然、その素晴らしさに触れる」「希少動植物保護に向けた取り組み着実に前進」「高山にギフチョウよ舞え!」「生息地の小学校が保護に力」「児童がギフチョウを飼育(かわいい)」と一面にわたって、内容が詳しく書かれています。

その記事を、長野県に在住の山口光江さん(60)が、ふるさと出雲市大社町に帰省され、

丁度この新聞記事を目にしその感動が小学校の校長先生と飼育観察をされている小笠原優里さんへ励ましの手紙として届きました。

早速、先生



方と優里さんからお礼状を送られました。が、そのお礼状を受取った山口さんは、「一人でギフチョウの世話をした小学生の女の子を知り、感動して小学校に手紙を送ったら、その女の子から今日返事が届いたんです。もう、うれしくって……。」「と新聞社編集局長へと電話をされました。

編集局長は、「全国にはふるさとを思うこういう方たちがたくさんいらっしゃるのだとしたら、本当に心強い」と感想を報道されていました。

大田市では、県内では初めての保護条例を昨年3月施行されたばかりですが、このような形で保護活動が着実に前進しつつあると感じた出来事でした。大江高山の魅力は、自然が確実に地域で守られていることだと、ギフチョウ登山を始めるきっかけとなった、山口県の森林インストラクター橋本順子さんからのお話を思い出しました。

これも、数十年続けられている秋の草刈り登山と、平成15年4月から毎年実施している「飛んでいるギフチョウを見る登山」が継続されている力だと確信しました。

この広報誌が届く頃には、小学校で飼育し、羽化したギフチョウが見られるかもしれません。そして、高山登山では、自然の大きな力により繁殖したギフチョウの乱舞を、多くの登山者が見ることが出来ることを祈っている今です。

俳句

あすなる句会

柿田 横手いちえ

送る荷に葉つきの露を求めたり

更けし夜の雪解け水の音流る

八反田 森 信子

湯治場に弾むは春の畑仕事

乱れたる心和ます花菫

椿 花田時子

春泥の乾くひまなし小さき靴

幾千の銀の鈴かや馬酔木咲く

下市 今田文字

里に住み医師減る話春寒し

学舎の廊下磨かれ黄水仙

川上 岩田律枝

ありがたや元気に朝餉蜆汁

住み馴れし里の細道葦草



三月や幾年経るも引揚者
ちまちまと齡重ねつ紀元節

椿 柿丸寿枝

我が家のペット自慢

(上市)

谷ロシロくん



まだまだ元気です!

年齢 15歳 ♂
おとなしくて甘えんぼです。

振り込め詐欺に

気をつけましょう

大代駐在所

4月行事予定



* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *
* * * * *

▼1日(木) 大代地区社協

ボランティア会議

▼4日(日) 大田市議会議員選挙

▼11日(日) 大江高山春の登山

山田集会所前 午前八時半集合

雨天の場合中止です

▼6日(火) ~ 15日(木)

春の全国交通安全運動

「事故ゼロのおくに自慢はしなねから」

▼9日(金) 大代幼稚園入園式

▼9日(金) 大代小学校入学式

▼9日(金) 第三中学校入学式

午後13時30分から

▼18日(日) 福祉弁当

▼20日(火) さくらんぼ教室

▼23日(金) 連合自治会予定

お知らせ

大代地区社協より

下谷 尾崎 浩 様から

本郷 和田 積 様から
上飯谷 柿田幸雄 様から
八反田 後藤茂雄 様から
香典返しにかえ金一封のご厚志を
頂きました。厚くお礼申し上げます。

編集後記



三寒四温とはいふものの、思いがけない春の大雪に除雪車の出動もあり、驚きました。まだ溝や裏庭などには残雪が見える所もありますが、また穏やかな春の日差しが戻ってきました。

先日大代小学校では5名の卒業生が来賓の方々や先生方と父兄に見守られながら学舎を巣立って行きました。中学校での益々の活躍を期待したいと思います。おめでとうございます。

今年度は、公民館から新しく「大代まちづくりセンター」へと変わりましたが、大きな混乱もなく皆様に町の情報誌として一年間「ひろば大代」をお届けする事が出来ました。ありがとうございます。

これからも皆さんへの身近な情報発信誌として「ひろば大代」へのご寄稿・ご支援・ご協力をお願い致します。